

Ⅱ 小学部の教育課程

1 小学部の教育目標

- (1) 健康で丈夫な身体を育てる。(げんきな子)
- (2) 身の回りのことは自分でできる力を育てる。(じぶんでする子)
- (3) 豊かな感情と表現する力を育てる。(あかるい子)
- (4) 最後までやりぬく力を育てる。(がんばる子)
- (5) 約束やきまりを守り、集団に参加する態度を育てる。(なかよくする子)

2 教育課程の編成方針

- (1) 学習指導要領に基づき、児童の障害の状態や発達段階等を把握して、系統的な指導を行い、弾力性のある教育課程を編成する。
- (2) 「教科別、領域別の指導」のねらいを踏まえて、児童の実態に応じて「各教科等を合わせた指導」を位置づけ教育課程を編成する。
- (3) 児童の主体的な活動を促し生活力を高め「生きる力」を育成する教育課程を編成する。
- (4) コーポレーションタイムを活用して中学部・高等部との連携を密にし、一貫性のある教育課程の編成をする。
- (5) 自立活動は教育活動全体を通して指導するとともに、自立活動の時間を設定し、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服させ、心身の調和的発達を促進するよう教育課程を編成する。
- (6) ・教育活動全体を通して体力づくりをし、健康の保持増進を行うよう教育課程を編成する。
・性教育については児童の身体的・生理的発達を踏まえ学校生活全体を通して行うよう教育課程を編成する。
- (7) 教育活動全体を通して道徳的心情を育てるよう教育課程を編成する。
- (8) 進路指導については、中学部・高等部と連携した教育課程を編成し、児童生徒の発達段階に合わせて、キャリアパスポートを活用したキャリア教育を推進する。

3 各教科等の指導の重点

(1) 各教科

①生活

ア 知識及び技能

- ・日常生活に必要な身近処理の知識、技能及び態度を育て、集団参加ができるように支援し、身近な社会や自然の様子に興味・関心を深める。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・日常生活に必要な簡単なきまりが分かり、それらを守って行動し、身近な社会や自然の特徴や変化に気づかせる。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・日常生活でのおよその予定が分かり、見通しをもって行動し、身近な社会や自然の特徴や変化の様子を知ることができる。

②国語

ア 知識及び技能

- ・日常生活に必要な国語について、言葉の特徴や使い方を身につける。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・日常生活における人とのかかわりの中で、自分にできる方法で伝え合う力を身につけ、思考力、想像力を養う。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・見たり聞いたりしたことを、自分にできる方法で表現しようとする意欲や態度を育てる。

③算数

ア 知識及び技能

- ・具体物の操作活動を通して、数量や図形を処理する技能を身につける。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・身近にある数量や図形に気づいたり、表現したりすることができる。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・身近にあるものの数量や図形に興味や関心をもち、学んだことを学習や生活に活用しようとする態度を養う。

④音楽

ア 知識及び技能

- ・音や音楽に注意を向け、音楽のつくり気づくとともに、感じたことを音楽表現するための簡単な技能を身につける。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・感じたことを表現することや、音や音楽に気づきながら、関心や興味をもって聴くことがで

きる。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・音や音楽に関わり、教師や友達と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しむものにしようとする態度を養う。

⑤ 図画工作

ア 知識及び技能

- ・いろいろな材料や用具を工夫して用い、かいたり、つくったり、飾ったり、使ったりする活動を楽しむ力を身につける。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・粘土、クレヨン、はさみ、のりなどの身近な材料や用具を使いながら、見たことや感じたことを絵にかいたり、つくったり、それを飾ったりするなどの表現方法を広げる。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・土、木、紙などの身近な材料をもとに、かいたり、つくったり、作品を飾ったりすることに関心を深める。

⑥ 体育

ア 知識及び技能

- ・身体の特徴に応じて基本的な運動に慣れ親しみ、体力の向上を図りながら、簡単な合図や指示に従って、いろいろな運動を身につける。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・運動や健康について自己の課題を知り、自ら考え行動し、他者に伝える力を養う。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・基本的な運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

(2) 特別の教科 道徳

ア 良いことと悪いことの違いがわかり自分でできることは自ら取り組み、最後までやり抜こうとする態度を養う。

イ 気持ちのよい挨拶や言葉遣い、動作などに心がけ、身近にいる人と仲良くし、助け合う心を育てる。

ウ 約束やきまりを守り、集団生活において与えられた仕事に進んで取り組む態度を養う。

エ 身近な自然に親しみ、動植物に優しく接する心を育てる。

(3) 外国語活動

ア 知識及び技能

- ・外国語の歌や日常生活に馴染みのある語などを聞き、音声やリズムに親しむ。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・身近で簡単な事柄について、見聞きしたり、相手の働きかけに応じたりする基礎的な力を養う。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・外国語を通して、外国の文化などに触れながら、言語への関心を高め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(4) 特別活動

ア 知識及び技能

- ・集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・自主的、実践的な集団活動を通して、自己の生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

(5) 自立活動

個々の児童が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、調和的な発達を促す。

ア 健康の保持・・・生活のリズムや望ましい生活習慣を身につける。

イ 心理的な安定・・・情緒の安定を図り、状況の理解と変化に対応できる。

ウ 人間関係の形成・・・他者とのかかわりを深め、集団への参加ができる。

エ 環境の把握・・・視覚、聴覚、触覚等を通して、環境を把握し、行動できる。

オ 身体の動き・・・日常生活に必要な基本動作ができる。

カ コミュニケーション・・・言葉、身振り、表情、視覚的補助具等を活用して、コミュニケーションの基礎的能力を身につける。

(6) 各教科等を合わせた指導

①生活単元学習

- (ア) 児童が興味・関心を持つ身近な題材を通して、生活に必要な習慣や技能及び態度を養う。
- (イ) 生活に即した学習活動に共同して取り組む楽しさを味わわせることにより、興味・関心を引き出し活動への意欲を育てる。
- (ウ) 具体的な活動や体験等を通した学習活動に繰り返し取り組むことによって見通しを持ち、主体的に活動できる力を育てる。
- (エ) 異年齢の児童生徒との協働学習の中で、身近な仕事（作業）に興味・関心を持ちかわりながら活動ができる。（コーポレーションタイム）

4 交流及び共同学習の重点

近隣の学校や地域との交流及び共同学習を通して、お互いの理解、認識を深め、社会性を養うと共に豊かな人間性を育てる。（児童の実態に応じ、年間を通して居住地校交流を行う。）

5 生徒指導の重点

- (1) 家庭や地域社会及び関係機関、教師間の連携を密にし、個々の児童の発達段階や障害の状態に応じて、基本的生活習慣の形成、社会生活に必要な能力を養い、生活の充実を図る。
- (2) 学校教育活動全体を通して、集団の決まりやマナーを守る態度を育てる。

6 キャリア教育の重点

- (1) 個々の発達段階に応じて、自分でできることを増やし、社会生活において必要な基本的生活習慣を身につける。
- (2) 家庭・地域社会と連携をとり、生活経験の拡大を図る。
- (3) 中学部・高等部と連携したコーポレーションタイムを通して、身近な仕事や作業に興味・関心を持ち、人間関係の形成に必要な基礎的能力の充実を図る。

7 生涯教育へ意欲を高める指導の重点

学習活動を通してスポーツ活動や制作活動、音楽活動等に取り組んだり、学校外での多様な文化芸術の鑑賞・体験の機会を設定したりすることで生涯学習に対する興味・関心を育む。

8 ICT 機器利活用の重点

児童の「意欲を高めること」「理解を高めること」「思考を深めたり広げたりすること」「表現や技能を高めること」を目的とした利用の他に特に児童一人一人における合理的配慮や基礎的環境整備を目的とした活用を図っていく。

9 安全教育の重点

- (1) 教育活動全体を通して、健康で安全な生活を営むのに必要な態度を養う。
- (2) 交通安全教室や行事等を通して、交通安全について知り、きまりを守り行動できる。
- (3) 避難訓練を通して、災害時に必要な行動がとれる。